

2019 年ひとり反省会

JM1LZT 富山俊一

早いもので、30 年ぶりに無線の世界に戻ってから 2 年以上が経ちました。当初完全に浦島太郎状態だった私でしたが、240 グループ諸兄のお力添えで、なんとかここまで来れたことに感謝しています。

復帰 2 年目となった 2019 年を振り返ってみると、どうやら「移動とコンテストの日々」だったと言えそうです。元はといえば、240 グループの電波伝搬実験への参加がきっかけで、それまで正直言って全く興味なかった移動運用に目覚めてしまいました。車載機を手に入れたことと、自宅では見事に「飛ばない、聞こえない」ことがガッツリとリンクした結果に、コンテスト好きなことが加わって、私の 2019 年の無線生活が決まりました。

振り返ってみると

4 月	ALL JA	42 位	着外
5 月	東京コンテスト	5 位	着外
7 月	6m and down	5 位	入賞
8 月	フィールドデー	5 位	着外
	KCJ	88 位	着外
9 月	XPO	24 位	着外
10 月	東京 CW	5 位	着外
11 月	多摩川	1 位	優勝

と、8 つの国内コンテストにエントリーしました。他にも「部分参加」の DX コンテストもいくつかありましたが、それらはまあ割愛ということで ^^;(質、量ともに、やったうちに入りません)

KCJ と XPO は自宅から 7MHz の CW で、後は基本的に移動して 50MHz の CW(ALL JA と多摩川は電信、電話部門)でのエントリーでした。

結果はご覧の通り、「5 位ならまかせてちょ〜だい大会」でした σ^_^; 数字って正直なもので、私の現時点での実力を的確に表しているのだらうと思います。一度や二度ではない「安定の 5 位」は、厳粛に受け止めています。「上にいる 4 人」の方々と比べた時、自分に何が足りないのか、あらゆる角度から絶賛分析&反省中なのはもちろんです。フィールドデーを除けば、こちらは高い所に移動しているというアドバンテージがありながら、固定局に負けてしまう。もちろんこちらの出力 50W に対し、固定局はそれなりの出力でやられている場合が多いだろうとは思いますが、アンテナの高さやエレメント数でも負けているかもしれません。

しかし、結局は「人のなす技」である無線のコンテストで、最終的にものを言うのはハードではなくてソフト=オペレーターの能力ではないかと思えます(思いたいです)

最近、陸上競技の長距離走の分野では「厚底でタイムの出る靴」が話題になっているようですが、ルールで禁止されていないならば、考えるあらゆる手段を使って「勝ちに行く」のは当然だと思います。肉体的に鍛え抜いた高いレベルのアスリートだからこそ、道具にも考えられるあらゆる工夫は、あって然るべきではないでしょうか。しかも、最先端技術の賜物を使い、それでも結局は人の力の差で決着がつく。それこそがスポーツの醍醐味だと思います。

無線の世界でも skimmer に代表される最新技術や SO2R のような「テクノロジー+オペレーション能力」が最先端技術として取り入れられてきているようです。

かつて「金のない若造」だった頃、道具の不足は有り余る時間と体力(と気合い)で補おうとしていました(補い切れてませんでした)

その頃に比べるとちょっとだけ自由になるお金が増え、それに反比例して減ってしまった時間と体力。さて、どうしたものでしょう？少なくとも、道具はそれなりに揃えられそうです。ならば(だからこそ)やはり最後は「人の技術」で勝負に勝つしかなさそうです。

勝っても負けても「道具のせい」にせず、「己の能力」の結果として受け止められるような移動とコンテストライフの「2 周目」に臨み、来年の今ごろ、もうちょっと良いご報告が出来るよう、日々、構想、想像、妄想を繰り広げている冬の終わりです。